

# スポーツ協会における 組織と財政について

明星大学経済学部経済学科4年

澤ノ井天稀

はじめに

---

# はじめに

---

今回、スポーツ協会における組織や財政について意見するということで基本的な概念を示した上でJFDAならびに地方協会と比較していき、最後に個人的に考える提案をスライドを使いながらしていこうと思います。

# 組織について考える

---

# 組織について考える

---

組織と聞くと部門によってそれぞれ担当者がいて、それを統括して状況把握をしながら軌道修正を行う。責任者がいるようなトップから枝分かれ知っているような団体のことをイメージする方も多くいると思います。

# 組織について考える

---

個人的にもそのイメージが強いのですが、私の経験上その枝分かれが上手く作用している時は何か作業を行っている際に適度に進捗状況を確認してくれる監査的な役割の方がいる時が一番、スムーズに事が進んでいるように思います。

# 組織について考える

---

では、JFDA並びに地方の協会における場合について考えてみます。

JFDA内では会長をはじめとする最終責任者から、それぞれの部門を対応する専務理事、常務理事、理事、監事を設けています。

地方協会も同様に会長をはじめ、広報などそれぞれの部門を担当する方が存在しています。

参照)JFDAホームページ 役員ページ並びに組織機構図ページ

役員(<https://www.jfda.or.jp/about/board/>)

組織機構図(<https://www.jfda.or.jp/about/organization/>)

# 財政について考える

---



# 財政について考える

---

続いて、スポーツ協会における財政について考えていきます。

スポーツ協会の基本的な収益は会費や大会などの事業収益が挙げられます。

また、助成金やスポンサー企業からの協賛金なども収益となっている例もあります。

# 財政について考える

---

JFDA並びに各都道府県協会も同じく会費をはじめとする大会や講習会などの事業収益などを中心に助成金などの収益により活動していたと思うが、2020年は新型コロナウイルスの影響により主要な大会のほとんどが中止もしくは延期さらには各大学が新歓活動が思うようにできず会費収入が例年よりも少なくなってしまうと思われる。

# スポーツ協会の未来図

---

# スポーツ協会の未来図

---

ここまで、組織、財政の基本的な概念からJFDAとの比較を行ってきました。  
ここからは個人的な意見ではありますが、今後スポーツ協会として行ってみてはどうかというのを2つ提示していきます。

# スポーツ協会の未来図

---

第1提案 1dayの大会を開催してみる。

昨年から続く新型コロナウイルスの影響で宿泊を伴うイベントを開催することが難しくなっています。

そこで事業収益を確保するためにも1dayで大会を開催することを提案します。最初は不定期でもいいので何回か回数を重ねた上で定期化を図っていけば、定期的に事業収益が入るのでスポーツイベントの全面禁止などにならない限り続くことができるのではと考えます。

# スポーツ協会の未来図

---

第2提案 学生スタッフの稼働。

第1提案の1dayなどの継続的な大会や講習会を行うとなれば、人手が必要となります。しかしながら、協会としての業務にはそれぞれ担当がありそちらも手放せない。そこで協会の手伝いとして学生を募るのはいかがでしょうか。(地方別に)

また、現在のように協会方の知り合いではなく大学を指定もしくはこの年はこの大学からという風に募集したほうが、有志だとどうしても年によって人数の偏りが出てしまうのでそれも防ぐ事ができる。

報酬はイベント開催ごとで良いと考えます。

おわりに

---

# おわりに

---

私が提案した2つの案はあくまでも一例です。

現在のJFDAにおける組織構築はしっかりしていると私は考えています。しかしながら一般の会員の方々はまだまだ「案内が遅い」など様々な対応を求めてくると思われれます。

今後もそのような意見に対応しながら、協会としても事業者としてもさらに存在感のあるものになっていただければと思います。

私も微力ながら何かしらお手伝いできたらと考えています。